

# テーマ3 資源循環型社会の構築

## 施策の柱3.1 4Rの推進

### 目標9

市民1人1日あたりの資源物を除いたごみの排出量を平成32年度(2020年度)までに574gにします。

【目標担当課:資源循環課】

※平成20年度(2008年度)時点での市民1人あたりのごみの排出量は763gとなっています。

※目標9は「茅ヶ崎市一般廃棄物(ごみ・生活排水)処理基本計画」と整合性を図った数値としています。

平成30年3月の同計画の改訂に伴い、平成30年度の取り組みより目標値を574gから614gに変更します。

### 目標10

リサイクル率(※)を平成32年度(2020年度)までに34.7%にします。

【目標担当課:資源循環課】

※ごみの排出量に占める資源物の割合。①資源ごみとして回収したもの、②収集後の選別処理により回収したもの、③焼却灰の溶融化量等をごみ排出量で除したもの。

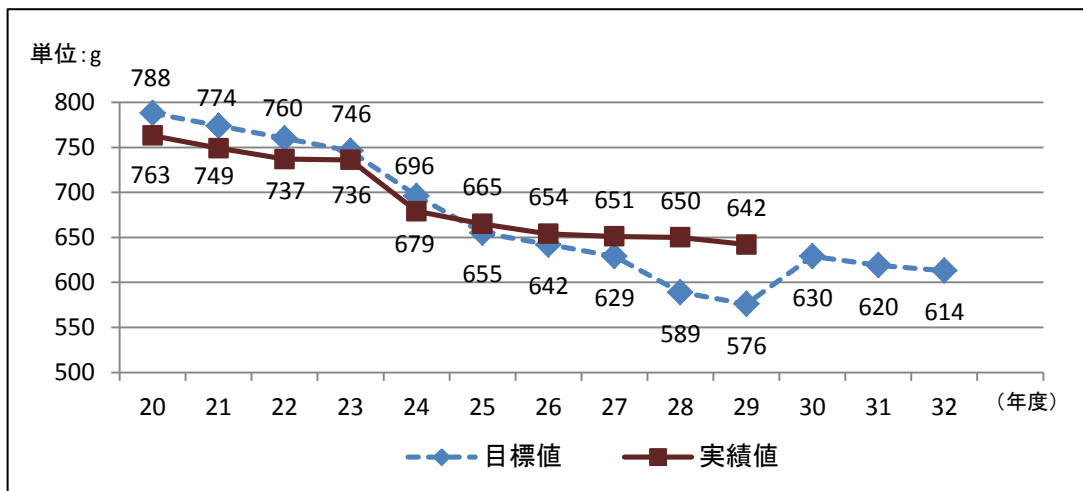
※目標10は「茅ヶ崎市一般廃棄物(ごみ・生活排水)処理基本計画」と整合性を図った数値としています。

平成30年3月の同計画の改訂に伴い、平成30年度の取り組みより目標値を34.7%から27.0%に変更します。

### ■目標9の進捗状況

●市民1人1日当たりのごみ排出量の推移(資源物を除く)

平成29年度	642g
--------	------



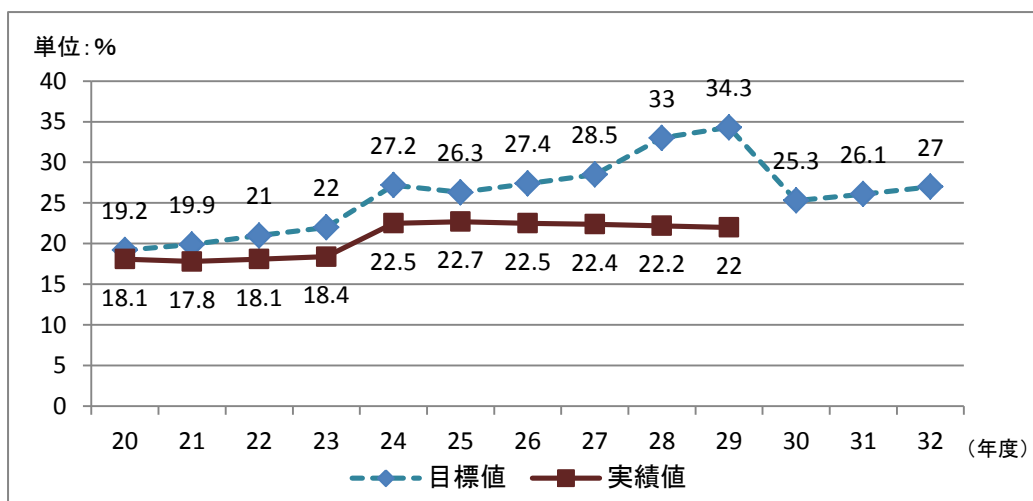
※単年度の目標値は「一般廃棄物(ごみ・生活排水)処理基本計画」によるもの。

(平成24年度までは20年3月策定の計画、25から29年度までは平成25年3月改定の計画、30年度以降は30年3月に改訂した計画より抜粋)

## ■目標10の進捗状況

### ●リサイクル率の推移

平成29年度	22.0%
--------	-------



※単年度の目標値は「一般廃棄物(ごみ・生活排水)処理基本計画」によるもの。  
 (平成24年度までは20年3月策定の計画、25から29年度までは平成25年3月改定の計画、30年度以降は30年3月に改訂した計画より抜粋)

### (参考)資源物排出量の推移

単位:t

	平成28年度			平成29年度			
	予測(A)	実績(B)	(A)-(B)	予測(A)	実績(B)	(A)-(B)	
びん	1,923	1,848	75	2,101	1,803	298	
かん	706	704	2	821	687	134	
ペットボトル	703	703	0	744	689	55	
古紙類	新聞チラシ	1,227	880	347	1,142	777	365
	本・雑誌・雑紙	4,010	3,442	568	4,069	3,299	770
	段ボール	2,136	2,849	-713	3,084	2,818	266
	飲料用紙パック	98	59	39	78	58	20
衣類・布類	1,170	1,040	130	1,132	1,052	80	
プラスチック製容器包装類	2,308	2,322	-14	2,491	2,299	192	
廃食用油	84	81	3	78	86	-8	
金属	79	67	12	83	69	14	
小型家電	4	3	1	1	3	-2	
合計	14,448	13,998	450	15,824	13,640	2,184	

## 重点施策21 リフューズ（要らないものを買わない・断る）

### ■概要

- ・マイバッグ持参の普及に向けた取り組みを推進します。
- ・不要なレジ袋及び過剰包装の辞退をはじめ、不要なものを「買わない」、「受け取らない」という生活様式が本市の文化として定着するよう啓発事業を推進します。

### ■平成29年度の取り組み

#### ①リフューズを念頭に置いた生活様式の定着に向けた啓発事業の推進

事業名	実施内容	担当課
マイバッグ持参の推進に向けた啓発活動	・環境フェア(※)の場を活用し、不要なレジ袋の削減やマイバッグ使用の啓発を行いました。	資源循環課
市内事業者へのレジ袋削減の協力呼びかけ	・市内事業者への訪問調査時において協力を呼びかけました。	
ごみの排出に関するアンケート調査	・平成29年度は従来の「ごみ排出に関するアンケート」に替え、環境フェア、小学校4年生向け副読本、自治会・小学校を対象とした出前講座などでリフューズの啓発を図るとともに、市内の物販店向けにはリフューズ推進の方向性や取り組みについてアンケートを行いました。	
「ごみ通信ちがさき」の発行等を通じたごみ処理に対する意識啓発事業	・「ごみ通信ちがさき」を10月と3月に発行し、レジ袋の有料化や簡易包装の実施などに積極的に取り組む「ごみ減量・リサイクル推進店(※)」の紹介を行うとともに、「必要なものを必要なだけ購入する」、「小盛りメニューがあるお店を活用する」など、厨芥類を減らす工夫を周知しました。	

### ■平成29年度予算執行状況

事業名	29年度予算額	29年度決算額	担当課
ごみ処理に対する意識啓発事業	1,387千円	1,236千円	資源循環課
環境学習事業(出前授業等)	420千円	145千円	
合計	1,807千円	1,381千円	

### ■成果・課題と評価

成果	評価
<p>・マイバッグの推進については、平成15年から28年にかけて、消費者・事業者・行政からなる「エコ・シティ茅ヶ崎マイバッグ推進会議」を中心とした運動を展開しました。この間、大型店のレジ袋辞退者数は約5倍となり、マイバッグで買い物をするという行為は本市の文化として定着してきたと考えられます。当該会議は当初の目的を達成したため解散しましたが、引き続き、市による啓発活動を実施することで、リフューズについて周知を図ることができました。</p>	<p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <p>A: 極めて順調に進んでいる            B: おおむね順調に進んでいる            C: ある程度進んでいる            D: あまり進んでいない            E: 積極的な取り組みが必要            -: 取り組みなし(評価不能)</p>
<p><b>課題</b></p> <p>・レジ袋の辞退についてはすでに浸透しており、今後は、レジ袋に限らず、不要なものは「買わない」「受け取らない」というリフューズに関する啓発が必要です。</p>	

## 重点施策22 リデュース（ごみの排出を抑制する）

### ■概要

- ・ごみの排出状況や市民活動団体等の取り組み、また「茅ヶ崎市廃棄物減量等推進審議会」における協議内容を分かりやすく周知し、行動改善を促進します。
- ・ごみ処理施設の見学等をはじめ、特に子どもを対象とした学習機会の充実を図ります。
- ・事業者に対して積極的に「ごみ減量・リサイクル推進店」(※)制度への参画を呼びかけ、簡易包装やばら売りの推進を図ります。
- ・必要に応じて家庭ごみの有料化の導入に向けて検討を行います。

### ■平成29年度の取り組み

#### ①ごみの排出状況や市民活動団体等の取り組み内容の周知と行動改善の促進

事業名	実施内容	担当課
「ごみ通信ちがさき」の発行等を通じたごみ処理に対する意識啓発	・「ごみ通信ちがさき」を10月と3月に発行し、その中で「ごみ減量化プロジェクト」と題した、燃やせるごみに含まれる紙類のリサイクル、厨芥類を減らす工夫について啓発するとともに、ごみ処理やごみ処理施設整備に要する経費をお知らせしながら、市民の皆様へごみ減量化の意識高揚の啓発を行いました。	資源循環課
生ごみ処理容器(※)、家庭用電動式生ごみ処理機(※)の普及啓発、購入補助	・生ごみ処理容器の幹旋62台、家庭用電動式生ごみ処理機の購入補助件数32件を行いました。	資源循環課
学校給食残渣堆肥化(※)事業	・市内3小学校から出る給食残渣を堆肥化し、市内の畑で利用しました。 ・給食残渣堆肥を活用し、栽培した野菜(サツマイモ)を浜之郷小学校へ提供しました。	資源循環課 農業水産課

#### ②子どもを中心とした学習機会の充実

事業名	実施内容	担当課
出前授業や学習会とアンケート調査の実施(学校、自治会等を対象)	・17の自治会及び11の小中学校で、合計約1,800名に対して出前講座を実施しました。	資源循環課
「パッカー君のごみ探検」の配付	・環境学習向けに作成した副読本を、新小学4年生約2,250人に配布しました。	資源循環課
ごみ処理施設見学	・自治会等を対象に寒川広域リサイクルセンター(※)、環境事業センター、最終処分場等の施設見学会を12回実施しました。	資源循環課

#### ③事業者に対するごみ減量化に向けた取り組み

事業名	実施内容	担当課
ごみ減量・リサイクル推進店を活用したキャンペーン	・環境フェアにてごみ減量・リサイクル推進店に関するパネル展示を実施し、広報に努めました。	資源循環課
ごみ減量・リサイクル推進店の周知と加入促進	・「ごみ通信ちがさき」や窓口での周知やアンケート調査の実施により加入促進を図ったことで6店舗の新規加入が得られました。平成29年度末の加入数は93店舗です(28年度末の加入数101店舗。閉店等により14店舗が脱退したため8店舗の減となりました)。	資源循環課
事業者100社への聞き取り調査	・ごみの多量排出事業者の上位50社に対して直接事業所を訪問し、ごみ集積場所を現場確認をしながらヒアリング及び排出指導を行いました。	資源循環課
事業系一般廃棄物の搬入物調査	・環境事業センターの焼却炉の改修工事のため、29年度は実施していません。	資源循環課
多量排出事業者へのごみ減量に向けた啓発・指導	・ごみの多量排出事業者(年間約60t以上)23社に対し、減量化計画書の提出を求めました。また、当該計画書に基づき、事業者訪問による実態調査を実施しました。	資源循環課

## ■平成29年度予算執行状況

事業名	29年度予算額	29年度決算額	担当課
生ごみ処理容器、生ごみ処理機(手動式・電動式)補助事業	2,196千円	1,377千円	資源循環課
ごみ処理に対する意識啓発事業(再掲)	1,387千円	1,236千円	
環境学習事業(出前授業等)(再掲)	420千円	145千円	
合計	4,003千円	2,758千円	

## ■成果・課題と評価

成果	評価
<p>・「ごみ通信ちがさき」の発行や出前講座の実施を通じた啓発活動や、事業者に対する排出指導等を通じて、ごみの排出抑制についての周知を図ることができました。</p>	<p><b>B</b></p> <p>A:極めて順調に進んでいる                      B:おおむね順調に進んでいる                      C:ある程度進んでいる                      D:あまり進んでいない                      E:積極的な取り組みが必要                      -:取り組みなし(評価不能)</p>
<p>・リサイクルできる紙や未利用食品が可燃ごみとして出されている現状があり、ごみ減量化に向けたさらなる取り組みが必要です。また、ごみ処理及びごみ処理施設整備に関する財源を今後も確保していく必要があります。これらの課題解決のため、幅広く御意見を伺いながら、ごみ処理有料化の検討を進めます。</p>	

## 「ごみ通信ちがさき」春号(平成30年3月1日発行)

### ★主な掲載内容

- ・茅ヶ崎市のごみ処理経費とごみ処理量の推移
- ・処理費と建設改良費(処理費の内訳/ごみ焼却処理施設の老朽化に伴う大規模修繕工事)
- ・ごみの減量のために茅ヶ崎市がすべきこと
- ・ごみの減量のためにわたしたちができること

### ★INFORMATION

- ・ごみ減量・リサイクル推進店
- ・家庭用生ごみ処理機購入費補助金の補助率の変更
- ・リサイクル品展示室終了
- ・土曜日のごみの自己搬入中止
- ・水銀使用の廃製品の適正分別

## 重点施策23 リユース（繰り返し使う）

### ■概要

- ・家庭用品の再利用を促進するため、各種制度や取り組みの運営推進に努めます。
- ・リサイクル推進店未認定のリサイクルショップやリターナブルびん(※)取扱店、リペアショップなどの認定を促進し、認定店舗の情報を市民・事業者が発信することで資源の有効活用とごみの減量化を図ります。

### ■平成29年度の取り組み

#### ①家庭用品の再利用促進、各種制度や取り組みの運営推進

事業名	実施内容	担当課
再使用可能な大型ごみを修理・補修しリユース家具として提供	・1月を除く11か月で395点のリユース家具を提供しました。 ・民間業者によるリユース事業の普及に伴い今後のリサイクル品展示室のあり方を検討し、一定の役割を終えたものとして、平成30年3月をもって終了しました。なお、催事等でのリサイクル品出張展示は引き続き実施します。	環境事業センター
不用品登録制度(※)(不用品バンク)の周知と推進	・広報紙や市ホームページを通じて、事業の周知を図りました。また、第4四半期からは、同様に広報紙や市ホームページ、登録用紙への記載等により、平成30年度をもって事業が終了する旨の周知を始めました。	市民相談課
出前授業や学習会とアンケート調査の実施(学校、自治会等を対象)(重点施策22の再掲)	・17の自治会及び11の小中学校で、合計約1,800名に対して出前講座を実施しました。	資源循環課
「パッカー君のごみ探検」の配付(重点施策22の再掲)	・環境学習向けに作成した副読本を、新小学4年生約2,250人に配布しました。	
ごみ処理施設見学(重点施策22の再掲)	・自治会等を対象に寒川広域リサイクルセンター、環境事業センター、最終処分場等の施設見学会を12回実施しました。	
FKP(古本回収プロジェクト)	・梅田小学校運営委員会とブックオフコーポレーションに協力を頂き、環境フェアにおいて、古本を回収し、その売却益を環境に関する基金に寄付していただくFKP(古本回収プロジェクト)を実施しました(回収数 375冊 寄付金額 8,145円)。	環境政策課
環境フェアにおけるリユース食器の活用	・環境フェアの飲食店コーナーにおいて、出店者の協力により、リユース食器を活用しました。	環境政策課

#### ②リユースについての情報集約・発信

事業名	実施内容	担当課
「ごみ通信ちがさき」の発行等を通じたごみ処理に対する意識啓発	・「ごみ通信ちがさき」を10月と3月に発行し、リターナブルびんの取扱いなどに積極的に取り組む「ごみ減量・リサイクル推進店」の紹介を行いました。	資源循環課
ごみ減量・リサイクル推進店を活用したキャンペーン(重点施策22の再掲)	・環境フェアにてごみ減量・リサイクル推進店に関するパネル展示を実施し、広報に努めました。	
ごみ減量・リサイクル推進店の周知と加入促進(重点施策22の再掲)	・ごみ減量・リサイクル推進店は平成29年度末で93店舗となり、28年度末の101店舗から8店舗の減少となりました(新規加入6店舗、閉店による脱退14店舗)。	
リサイクル市やフリーマーケット等でのリサイクル展示品の展示、4Rの啓発等の提供を目的とした取り組み	・環境フェアにてごみ減量・リサイクル推進店に関するパネル展示を実施し、広報に努めました。	

事業名	実施内容	担当課
リユースの促進に向けた新たな取り組み	・平成28年度に引き続き、リサイクル品展示室におけるリユース家具の提供にあたり、リサイクル品展示室内のポスターやホームページ、当選者通知において、500円以上の寄附をいただけるよう御協力をお願いしました。	環境事業センター

## ■平成29年度予算執行状況

事業名	29年度予算額	29年度決算額	担当課
ごみ処理に対する意識啓発事業(再掲)	1,387千円	1,236千円	資源循環課
環境学習事業(出前授業など)(再掲)	420千円	145千円	
合計	1,807千円	1,381千円	

## ■成果・課題と評価

成果	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・不用品登録制度やリサイクル品展示室の活用や、ごみ減量・リサイクル推進店の周知を通じて、家庭用品の再利用の促進を図ることができました。</li> <li>・環境フェアにおけるFKPの実施やリユース食器の活用によって、リユースに関する周知を図ることができました。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">C</p> <p>A: 極めて順調に進んでいる  B: おおむね順調に進んでいる  C: ある程度進んでいる  D: あまり進んでいない  E: 積極的な取り組みが必要  -: 取り組みなし(評価不能)</p>
<p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットオークションやリユースショップの普及により、不用品登録制度やリサイクル品展示室については、一定の役割を終えたと考えられますが、引き続き、リユースの促進に向けた、効果的な情報発信が必要です。</li> </ul>	

### 環境フェア



会場のような



リユース食器で沖縄料理を提供

### FKP (古本回収プロジェクト)



環境フェア当日のようす



寄付金贈呈式のようす

## 重点施策24 リサイクル（資源として再生利用する）

### ■概要

- ・資源物における分別品目の拡充を図ります。
- ・食品残渣の循環についてより身近に意識してもらえよう、市民農園や家庭菜園を対象にコンポスト(※)設置と利用を啓発し、実施可能な資源化施策の推進を図ります。
- ・バイオガス化の検討を行います。

### ■平成29年度の取り組み

#### ①資源物における分別品目の拡充と情報発信

事業名	実施内容	担当課
「ごみ通信ちがさき」の発行等を通じたごみ処理に対する意識啓発	・「ごみ通信ちがさき」を10月と3月に発行し、その中で「ごみ減量化プロジェクト」と題した、燃やせるごみに含まれる紙類のリサイクルについて啓発をするともに、ごみ処理やごみ処理施設整備に要する経費をお知らせしながら、市民の皆様へごみ減量化の意識高揚の啓発を行いました。	資源循環課
「ごみと資源物の分け方・出し方」、 「ごみと資源物の収集カレンダー」の発行	・環境事業センターと連携し、「出し方の注意点」を集約して掲載したページを新たに設けるなど、市民にとってわかりやすい紙面となるよう工夫を行い発行しました。	
出前授業や学習会とアンケート調査の実施(学校、自治会等を対象) (重点施策22、23の再掲)	・17の自治会及び11の小中学校で、合計約1,800名に対して出前講座を実施しました。	
「パッカー君のごみ探検」の配付 (重点施策22、23の再掲)	・環境学習向けに作成した副読本を、新小学4年生約2,250人に配布しました。	
ごみ処理施設見学 (重点施策22、23の再掲)	・自治会等を対象に寒川広域リサイクルセンター、環境事業センター、最終処分場等の施設見学会を12回実施しました。	
適正分別のための啓発、情報提供	・「ごみと資源物の分け方・出し方」、「ごみと資源物の収集カレンダー」を発行するとともに、ホームページや「ごみ通信ちがさき」を活用し、啓発、情報提供に努めました。	
集積場所における排出指導	・集積場所に設置する看板を作成することにより、集積場所での排出指導を行いました。	
環境指導員(※)、環境事業センターとの連携強化	・環境事業センターとは、様々な課題について常に情報共有・検討を行っています。また、主に集積場所での課題については環境指導員も一緒になって解決に努めました。	
使用済小型家電の収集(※)	・市民の利便性をはかり、収集量を増やすため、鶴嶺西コミュニティセンターに回収ボックスを設置しました。29年度末現在で、市内の回収ボックスは29基になりました。また、民間事業者が実施している宅配便による小型家電回収サービスも継続して実施しています。	
ごみ減量・リサイクル推進店の周知と加入促進 (重点施策22の再掲)	・「ごみ通信ちがさき」や窓口での周知やアンケート調査の実施により加入促進を図ったことで6店舗の新規加入が得られました。平成29年度末の加入数は93店舗です(28年度末の加入数101店舗。閉店等により14店舗が脱退したため8店舗の減となりました)。	
燃やせないごみ・大型ごみの資源化	・燃やせないごみ、大型ごみの中に含まれている資源物を活用するため、中間処理前の手選別と磁選機による選別を行っています。	
焼却残渣の有効利用	・焼却残渣を1,800℃の高温で熔融固化することにより得られた固形物(スラグ)は路盤材などに利用され、金属も回収され、再資源化されています。平成29年度は841tを再資源化しました。	



事業名	実施内容	担当課
剪定枝(※)の資源化検討・研究	・剪定枝の資源化の検討を行った結果、事業手法等の課題が挙げたことから、平成29年度末に改定した「茅ヶ崎市一般廃棄物処理基本計画」において、家庭ごみ有料化と並行し検討することを位置付けました。	資源循環課
紙リサイクルBOXの配布	・環境学習等の機会や「ごみ通信ちがさき」で市民に紹介し、希望する自治会や個人の方に窓口で配布しました。	環境政策課 資源循環課
インクカートリッジ里帰りプロジェクト	・市役所本庁舎等3か所で家庭用インクジェットプリンターの使用済みカートリッジを回収しました(回収実績:11箱、約90kg)。	環境政策課

## ②食品残渣の循環と実施可能な資源化施策の推進

事業名	実施内容	担当課
生ごみ処理容器及び家庭用電動式生ごみ処理機の補助事業	・生ごみ処理容器の斡旋62台、家庭用電動式生ごみ処理機の購入補助件数32件の実績がありました。	資源循環課
学校給食残渣堆肥化事業(重点施策22の再掲)	・市内3小学校から出る給食残渣を堆肥化し、市内の畑で利用しました。 ・給食残渣堆肥を活用し、栽培した野菜(サツマイモ)を浜之郷小学校へ提供しました。	農業水産課 資源循環課
家庭菜園利用者に対するコンポストの利用案内	・4月に開催した家庭菜園利用者を対象とした「園芸講習会」にて、コンポストの説明を行い、普及に努めました。	

## ■平成29年度予算執行状況

事業名	29年度予算額	29年度決算額	担当課
ごみ処理に対する意識啓発事業(再掲)	1,387千円	1,236千円	資源循環課
環境学習事業(出前授業など)(再掲)	420千円	145千円	
小学校の電動式生ごみ処理機維持管理	884千円	1,577千円	
学校給食残渣堆肥化事業費	250千円	250千円	農業水産課
合計	2,941千円	3,208千円	

## ■成果・課題と評価

成果	評価
<p>・分別品目の拡充については、従来のびん・かん・ペットボトル・紙類・古布類の5品目に、プラスチック製容器包装類・廃食用油・金属(平成24年度～)、小型家電(28年度～)を加えた9品目について回収を行い、資源として再生利用を図ることができました。</p> <p>・食品残渣については、実現可能な資源化施策として、引き続き、コンポストの普及等に関する取り組みを推進することができました。</p>	<p><b>B</b></p> <p>A:極めて順調に進んでいる B:おおむね順調に進んでいる C:ある程度進んでいる D:あまり進んでいない E:積極的な取り組みが必要 -:取り組みなし(評価不能)</p>
<p><b>課題</b></p> <p>・剪定枝の資源化の検討を行った結果、事業手法等の課題が挙げたことから、平成29年度末に改定した「茅ヶ崎市一般廃棄物(ごみ・生活排水)処理基本計画」において、家庭ごみ有料化と並行し検討することを位置付けました。引き続きの検討が必要です。</p> <p>・食品残渣のバイオガス化については、平成28年度における湘南東ブロックごみ処理広域化実施計画の改訂に向けた検討作業において、資源化効率、温室効果ガス(※)削減効果、エネルギー利用効果、経済性等の観点から検証を行った結果、導入を見送るという結論が出されました。</p>	

## 施策の柱3.2 地域資源を活かす地産地消の推進

### 目標11

地元農畜水産物を取り扱う店舗を、平成32年度(2020年度)までに90店舗にします。

\*ここで掲げる地元農畜水産物を取り扱う店舗とは、「茅産茅消応援団(※)」参加店舗数を指します。

【目標担当課:農業水産課】

### 目標12

学校給食における地場産農水産物の使用品目数について、平成32年度(2020年度)まで15品目以上を維持します。

【目標担当課:学務課】

### 目標13

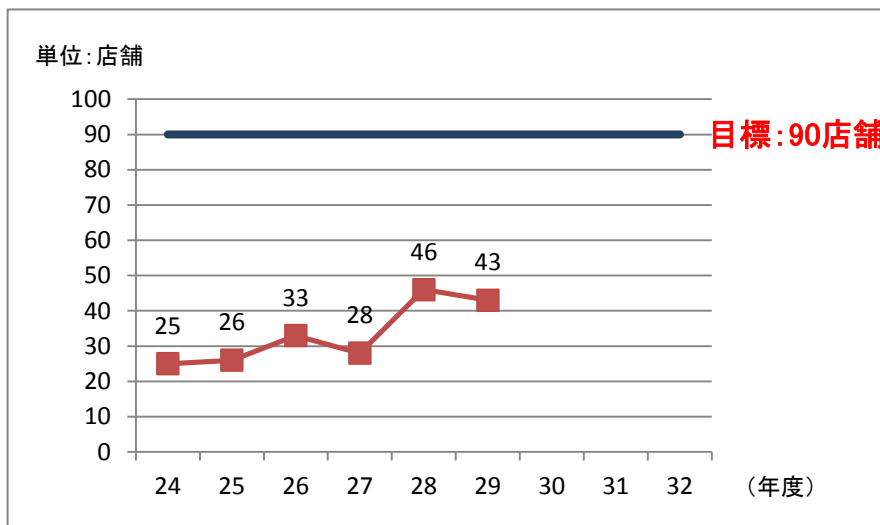
環境に配慮した農業に取り組む農業者や協力者を増やします。

【目標担当課:農業水産課】

### ■目標11の進捗状況

#### ●茅産茅消応援団参加店舗数

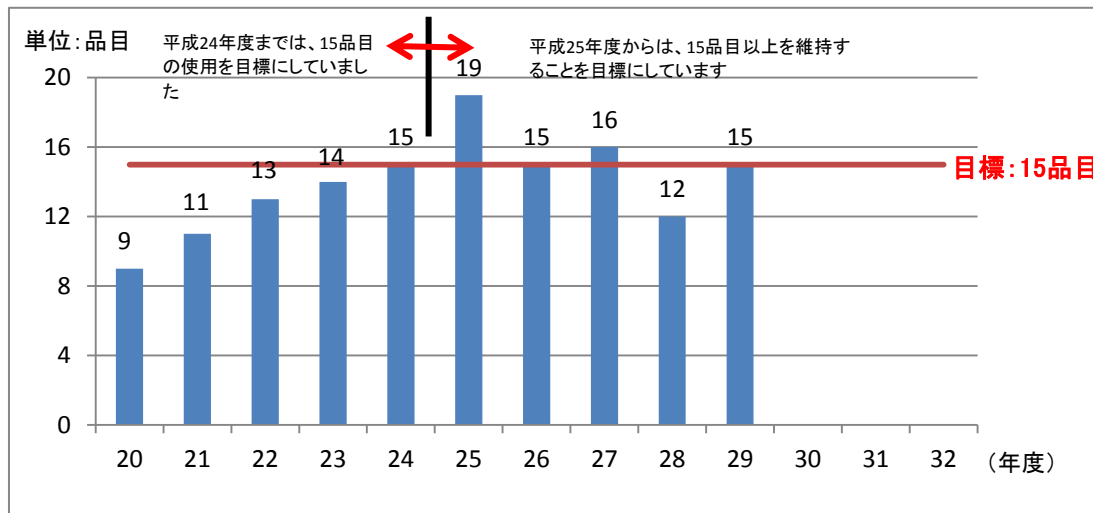
年度 (平成)	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
店舗数	25店舗	26店舗	33店舗	28店舗	46店舗	43店舗



## ■目標12の進捗状況

### ●学校給食における地場農水産物の使用品目数

年度 (平成)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
品目数	13品目	14品目	15品目	19品目	15品目	16品目	12品目	15品目



## ■目標13の進捗状況

### ●エコファーマー(※)認定生産者数

年度 (平成)	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
人数	3名	3名	3名	3名	2名	3名	3名

### ●マルハナバチ導入育成事業補助金

年度 (平成)	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
件数	19件	16件	16件	19件	17件	18件	17件

### ●熱水・土壌病害虫防除事業補助金

年度 (平成)	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
件数	2件	2件	2件	1件	2件	1件	1件

### ●土壌改良事業補助金

年度 (平成)	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
件数	82件	74件	68件	48件	62件	66件	59件

### ●施設野菜病害虫防除事業補助金

年度 (平成)	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
件数			22件	24件	21件	22件	25件

## 重点施策25 地産地消の推進

### ■概要

- ・地域農業の活性化、食の安全の確保を目的に、地域で採れたもの(資源)を地域で消費する「地産地消」(循環)を推進します。
- ・学校給食における地場産食材を使ったメニューの開発や、小売業、生産者との連携による地産地消の推進を図ります。
- ・市内における地産地消の取り組みや方法等を市民や事業者へ広く紹介し、地場産農水産物・加工品の利用を促進します。
- ・関係機関と協力し、生産者と地域住民が交流しながら地場産農水産物・加工品を販売する場の拡充をはじめ、生産者のニーズに合った販路の拡大に対する支援を進めます。

### ■平成29年度の取り組み

#### ①学校給食における小売業者、生産者との連携による地産地消の推進

事業名	実施内容	担当課
地場産野菜と水産物の継続的な使用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青果市場、生産者、青果商組合の協力により茅ヶ崎産野菜が市場に出された場合には、優先的に給食用として納品していただいています。また、茅ヶ崎カレーや夏期のかぼちゃについては地場産野菜を使用することをあらかじめ決めている場合は市場と生産者の協力により必要な野菜の量と時期に合わせて生産量の調整などをお願いしています。</li> <li>・平成29年度においても野菜15品目と水産物として「しらす」を使用しました。天候が安定しなかった28年度より使用品目や使用量は増えています。</li> </ul>	学務課
全校共通による地場産食材を使用した献立の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月に「かぼちゃのそぼろ煮(かぼちゃ)」、9月には「秋なすのトマトスパゲティ(なす)」、10月5日には全校一斉に「茅ヶ崎秋カレー(さつま芋)」、11月には、「湘南しらすごはん(しらす)」、1月に「茅ヶ崎カレー(ほうれんそう)」を実施しました。</li> </ul>	
茅ヶ崎産新米を使った給食を提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月から12月にかけて茅ヶ崎産米5tを購入し、市内各小学校において5回から6回の茅ヶ崎産新米による給食を実施しました。茅ヶ崎産米についてはJAの協力を得て検査を実施し、市内米穀店で精米をしたものです。また、茅ヶ崎産の黒米を使用し、古代米ごはんとして児童へ提供しました。</li> </ul>	
児童や保護者への地場野菜使用の周知	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「給食だより」(月1回)、「ミニ給食ニュース」(毎日)や地場野菜デーの時に生産者や流通にかかわった業者へのインタビューした時の顔写真やコメントを掲示しました。</li> </ul>	
栄養士による茅ヶ崎の農業についての学習、生産者・市場等との連絡調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月青果商組合より、地場野菜の最新情報を得て、各小学校の栄養士に連絡することにより、献立の組み替え作業時に当月の間でより多く地場産の野菜が使用できるように調整しています。</li> <li>・市内での生産量が多い秋なすを使用した献立も新たにとりいれ、実施することができています。</li> </ul>	
保育園給食における地場産野菜等の使用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茅ヶ崎青果商組合などに御協力いただき、できる限り使用しました。</li> <li>・市内産の野菜を使った献立の時には、給食時間の話題とし、園児が地産に興味を持てるよう取り組みました。</li> </ul>	保育課

#### ②市内における地産地消の取り組み、方法等の紹介と、地場産農水産物・加工品の利用促進

事業名	実施内容	担当課
のぼり旗等による地産地消の周知PR	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青果商組合と魚商組合に協力いただき、地場産農水産物が入った際には、のぼり旗を店頭に掲げていただき、見える化を図っていただきました。</li> </ul>	農業水産課
市内飲食店組合に対する茅産茅消応援団への参画呼びかけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地産地消青果まつりの開催のため、市内飲食店に事前打合せ等に参画いただきましたが、株式会社茅ヶ崎青果地方卸売市場面積縮小工事のため、開催できませんでした。</li> </ul>	

事業名	実施内容	担当課
地産地消の周知	・春・秋の農業まつりをはじめ、夏の果樹持寄り品評会や畜産まつり、冬には茅ヶ崎市花の展覧会及び湘南花の展覧会を開催したほか、関係機関や団体により開催されるイベントの開催支援を行い、地場農畜水産物の魅力のPRを行いました。また、「農業・漁業体験プロジェクト」や「買い物ツアー」等の市民参加型の事業を実施することで、地産地消の推進に繋がる意識醸成を一般市民や親子を対象に実施しました。	農業水産課
災害備蓄食糧おかゆの活用	・茅ヶ崎産米100%使用の災害備蓄食糧おかゆを7,560食購入し、備蓄しました。	
わいわい市の活用	・市内の多くの農業者が大型直売所である「わいわい市」を販路の一つとして活用しています。	

### ③生産者と地域住民との交流、地場産農水産物・加工品を販売する機会の拡充

事業名	実施内容	担当課
買い物ツアー、各種品評会、展覧会、園芸講習会等を通じた地産地消の推進	・市内農業者の直売所等を巡る買い物ツアーを年4回実施し、参加した市民の方に地場産農畜水産物をご購入いただきました。また、春・秋の農業まつりでの品評会の開催、茅ヶ崎市花の展覧会及び湘南花の展覧会を開催したほか、花の園芸講習会を3回実施し、本市の農業についての理解を深めていただきました。	農業水産課
海辺の朝市の支援	・「定例会」へのオブザーバーとしての参加や「あったかふれあいデー」開催に対しての支援を行いました。	

### ■平成29年度予算執行状況

事業名	29年度予算額	29年度決算額	担当課
地産地消推進事業費	20,210千円	19,459千円	農業水産課

### ■成果・課題と評価

成果	評価
<p>・地域農業の支援や輸送に伴う環境負荷の低減に寄与する地産地消について、学校給食、保育園給食における地場産農水産物の導入や、各種イベント等を通じた地場産農水産物・加工品の利用促進を通じて、進めることができました。</p>	<p><b>B</b></p> <p>A: 極めて順調に進んでいる  B: おおむね順調に進んでいる  C: ある程度進んでいる  D: あまり進んでいない  E: 積極的な取り組みが必要  -: 取り組みなし(評価不能)</p>
<p><b>課題</b></p> <p>・担当課による取り組みは着実に進展しています。茅産茅消応援団参加店舗数については、平成27年度から28年度にかけて大幅な増加がありましたが、28年度から29年度はほぼ横ばいとなっています。引き続き、地産地消の推進に努めるとともに、地産地消が環境面で与えるメリットについて、一層の周知・啓発を図ることが必要です。</p>	

## 重点施策26 環境に配慮した農業の普及啓発

### ■概要

- ・環境保全型農業(※)に関する技術や事例等の情報提供を行います。
- ・有機栽培や減農薬栽培等に取り組む農業者への補助等を実施します。

### ■平成29年度の取り組み

#### ①環境保全型農業に関する技術や事例等の情報提供

事業名	実施内容	担当課
給食残渣を堆肥化して栽培した野菜を小学校へ提供	・給食残渣堆肥を活用し、栽培した野菜(サツマイモ)を浜之郷小学校へ提供しました。	農業水産課
生産組合長回覧等を通じた環境保全型農業直接支援対策事業(※)の周知	・4月に開催された生産組合長会議にて環境保全型農業直接支援対策事業に関する資料を配付し、各組合で回覧していただきました。	
市内小学校への堆肥の提供で畜産及び堆肥、循環型農業(※)の学習機会の提供	・茅ヶ崎市畜産会により、市内希望小学校に堆肥を提供するとともに、茅ヶ崎小学校にて循環型農業の学習機会の提供を行いました。	
緑肥推進事業	・市内に水田を所有される方で、希望者にレンゲ草の種子を配付し、播種していただくことで、良好な景観形成と緑肥としての地力の向上を図りました。	

### ■平成29年度予算執行状況

事業名	29年度予算額	29年度決算額	担当課
環境保全型農業推進事業費	3,374千円	2,380千円	農業水産課

### ■成果・課題と評価

成果	評価
<p>・生産組合長会議への環境保全型農業直接支援対策事業の周知、小学校での循環型農業の学習機会の提供を通じて、環境に配慮した農業の普及啓発を図ることができました。</p>	<p style="text-align: center;">C</p> <p>A: 極めて順調に進んでいる                      B: おおむね順調に進んでいる                      C: ある程度進んでいる                      D: あまり進んでいない                      E: 積極的な取り組みが必要                      -: 取り組みなし(評価不能)</p>
<p>課題</p> <p>・引き続き、様々な機会をとらえて、環境に配慮した農業の普及啓発に努める必要があります。</p>	